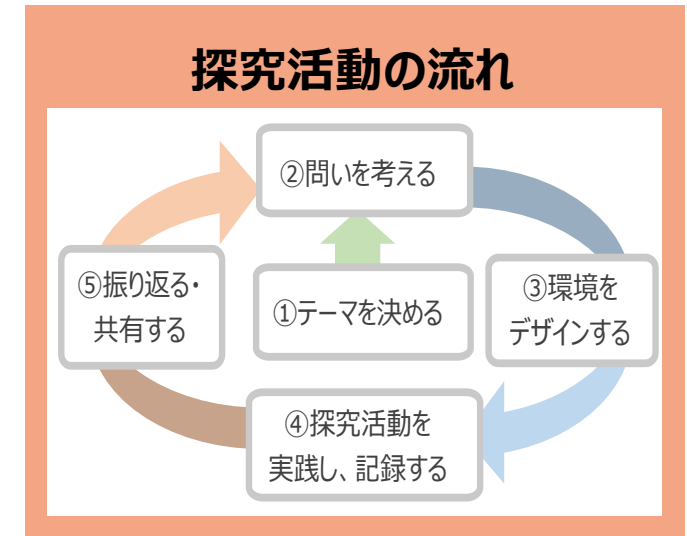
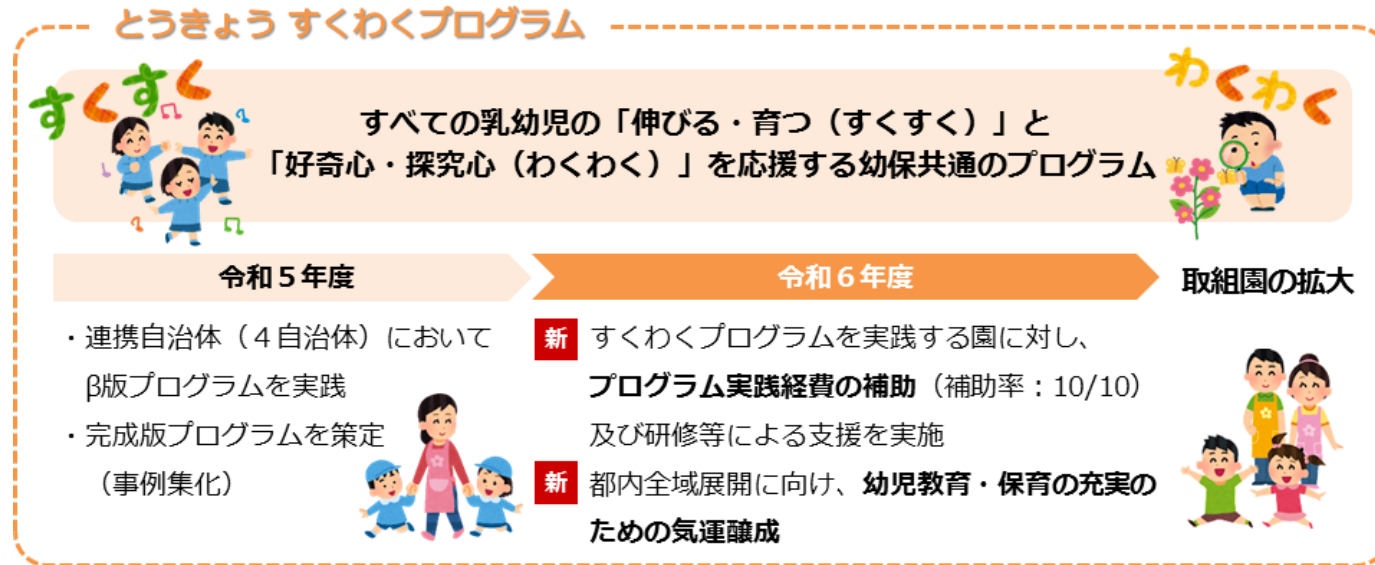


とうきょう すくわくプログラム推進事業

各園の環境や強みを活かしながら、「光」「音」「植物」など各園が設定するテーマに沿って、乳幼児の興味・関心に応じた探究活動を実践し、非認知能力の向上など、幼児教育・保育の充実を図る幼稚園・保育所等を支援



事業概要

| | |
|---------|---|
| 実施施設 | 幼稚園、認定こども園、認可保育所、認証保育所、小規模保育事業 |
| 対象児童 | 幼稚園、保育所等に通う0歳児から6歳児 |
| 補助内容 | 備品購入費、人件費等、プログラムの実践に係る経費 1園あたりの上限額：1,500千円 |
| 負担割合 | 都：10/10（6年間） ※補助の新規採択はR6年度～R8年度を予定 |
| 探究活動の流れ | ①幼稚園・保育所等の各園の環境や強みを活かしながら、子供たちの興味・関心に応じたテーマを設定する。 ②テーマに関する子供たちの興味・関心を探るため、問い掛けを行う。 ③素材や道具を準備し、環境を整える。 ④子供たちが主体的に活動できるよう配慮した言葉がけを行いながら、探究活動を実践し、活動中の子供たちの言葉、表情等の多様な表現に着目し、メモ・写真・映像等で記録する。 ⑤記録をもとに、保育者同士等で子供たちの関心や発見、表現を振り返り、活動を保護者等に共有する。 また、次の探究活動の更なる充実に向け、新たな問いや環境の構成を考える。 |

～「とうきょう すくわくプログラム」のご案内～

下記URL・QRコードよりご覧ください

東京都子供政策連携室ホームページ

- > 室事業の紹介
- > 推進チームによるリーディングプロジェクト
- > 乳幼児期の子育ち (URL)

<https://www.kodomoseisaku.metro.tokyo.lg.jp/jigyo/suisin-team/nyuyojikinokosodachi/sukuwaku-program>



ポケットブック (概要版)



子供は日々の遊びの中で、無意識に「探究」を積み重ねながら成長

プログラムの活用によって、世に出る遊びに近づけ、ねらいや意図をもって「探究」を実施

たどれば...

左の探究活動

右の探究活動

「あれ？」「なにかな？」という好奇心や夢中になって遊び込む探究心を大切に育みます

「非認知能力」の育成等、乳幼児の成長・発達をサポート

全体版



テーマ：表現（絵本） 塩崎保育園（江東区）

テーマを設定する

園の特色として園児力（観察力、話す力、表現する力）の獲得を掲げており、様々な経験を体験する一つの手法として絵本を活用している。今回の活動では、園児力その興味を持っている絵本の物語を題材に活動を展開した。

活動① ～絵本の世界を描く・冒険する～

子供たちが好きな絵本の世界を、クヨンや絵の具を用いて、部屋に広げたロール紙に表現する。

環境をデザインする

- 準備した物（ロール紙、クレヨン、絵の具、筆）
- 子供たちが絵本の世界を思い浮かべられるよう、長いロール紙を準備した。
- 子供が描きやすいように合わせて、道具を自由に選べるよう、クレヨンや絵の具、数種類の筆など様々な道具を準備した。

| 活動内容 | 時間 | 人数 |
|---------------------|-----|------|
| ① 絵本の世界を描く・冒険する | 60分 | 4人 |
| ② これまでの活動を共有する・冒険する | 60分 | 12人 |
| ③ てのらスケッチ | 60分 | 6人 |
| ④ 光の探検 | 60分 | 4人 |
| ⑤ 数え歌の世界を表現する | 60分 | 5～6人 |



テーマ：表現（絵本） 塩崎保育園（江東区）

探究活動を実施し、記録する

- 活動内容
 - 導入として、子供たちに問いかけながら絵本のストーリーを改めて振り返る。
 - 物語の登場人物を、絵本の冒険の世界を自由に想像し、絵で表現した。
 - 準備した道具
 - 「是非描いて！」「魚も描こう！」「協力して描いて！」「など、グループで協力し合いながら一つの世界を作り上げた。大きなロール紙に絵を描くことで、お互いの絵が繋がり、数え歌の世界が広がった。
 - 絵を描いた後は絵の上を実際、歩きながら、「海」を取り巻く「島」など、子供たちが思い描いたものをみんなで共有し、表現した世界を冒険する気分を味わった。
- 振り返る・共有する
 - 園の先生から
 - 思いがけない、と意図しながら、描き始めるイメージができてきたのかな？
 - 活動後の子供たちの発言が、子供たち自身も気づき、よびを呼んだ。
 - 専門家から
 - クイズを通して絵本の物語を共有している。絵本がスタートし、降りて、またどこかへ行って、大きな物語が一つの冒険になっていく。
 - グループによって活動の進め方が異なり、物語を進めている子、進めていない子、とどかに活動している子、絵本を読み聞かせる子など、グループの構成によって活動はそれぞれと異なる。このグループはまんざらとあれば絵本を挿入活動に進みやすいので、子供たちのやり取りの中で、探っていくことが大事である。

